

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために
Serve to Change Lives

2021-22年度 RI会長／シェカール・メータ
RI.D2590ガバナー／小倉 正
横浜旭RC会長／北澤 正浩

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NJTS1階／〒241-0821
TEL.045-465-6702／FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email: asahirc@titan.ocn.ne.jp
例会場 横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル
(榎岡田屋3階会議室)
例会日 毎週水曜日／12時30分～1時30分



横浜西部病院へフェイスシールド寄贈



横浜市へ医療機器支援



旭ふれあい区民まつり

2021年10月20日 第2442回例会 VOL. 53 No. 4

- 司会幹事 市川 慎二
- 開会点鐘 会長 北澤 正浩
- 出席報告

会員数	22名	本日の出席数	20名
本日の出席率	90.91%	修正出席率	90.48%

■本日の欠席者

宋、(目黒)

■他クラブ出席者

北澤、市川、二宮麻理子(地区)

■ゲスト

五十嵐 徹様(榎岡田屋常務取締役)

■会長報告 北澤 正浩

皆様こんにちは、今週に入り気温が急激に低くなり、朝晩の冷え込みも厳しくなってきました。体調も崩しやすく、風邪をひきやすい時期に入りました。コロナの影響で昨年は控えめだったインフルエンザも今年は大流行するのではというニュースも聞きます。どうかお体に気をつけてお過ごしください。

先々週の話で恐縮ですが10月7日に千葉を中心にマグネチュード5.9の地震が発生したことはみなさんも記憶に新しいと思います。旭区は震度4でしたが、横浜の他区では震度5弱まで揺れた地域もありました。私は建設業者なのですが、横浜市と建設業協会の協定で、市内

で震度5以上の地震が発生した場合、指定の公共施設に出勤し点検をする役割を任されています。夜の10時41分に地震が発生し、準備して旭区役所に到着したのが11時過ぎでした。夜間入口で当直の方と話していると、役所の職員の方が次々に登庁してきました。災害発生時には職員の方が参集するルールだとは聞いたことがありましたが、深夜にも拘わらず決まり通りに集まるのを見てると少し感心し、安心しました。(後日聞いた話では徹夜で対応していただいたようです)

今回の地震では大きな被害はありませんでしたが、予想されている巨大地震が発生した場合、同じように計画通りの対応できるか自信がありません。おそらく大きな混乱のなか、迅速な出勤はできないでしょう。少しでもスムーズな対応ができるように訓練やあらゆるケースに対応できる緻密な計画を日頃から進める必要があります。

当クラブは災害対策委員会を設け、他クラブより災害に対して準備しています。今後想定される、あらゆる災害に対して、被災地への支援や防災啓発活動を続けていきたいと思います。

■幹事報告

市川 慎二

- 1) 第8回理事会報告(次頁参照)
- 2) 会長幹事会の報告

・地区大会について

11月26日・27日に開催される地区大会は、会長幹事のみのお出席予定だったが、コロナ陽性者数の減少や、ワクチン接種者増加に伴い、全員参加へと変更となった。

・IMについて

今年度のIMは、諸事情により横浜南陵ロータリークラブで開催することのこと。場所は横浜関内ホールにて開催。講演者は昨年と同じ方とのこと。

・RLIについて

今年度は、4回開催とする。

第1回 12月19日 第2回 1月23日

第3回 2月20日 第4回 4月中

・地区研修大会について

地区研修大会は3月27日に開催となります。

・ライラについて

5月に予定している。

・卓話バンク及びロータリアンマップについて

卓話バンクについては、50名程登録者がいるので、ぜひクラブで活用してほしいとのこと。また、クラブ内で卓話バンクに登録していただ

ける方を募集しているので、協力をお願いしたいとのこと。

地区ホームページにロータリアンマップが掲載されています。現在は、主にロータリアン経営の飲食店やホテルが掲載されている。どの職業でも登録できるので、皆様の登録をお願いしたいとのこと。登録をいただける方は、会長・幹事・事務局までお願いします。

・次年度ガバナー補佐について

次年度のガバナー補佐は、新横浜ロータリークラブの佐藤佳一会員に決定したとのこと。

・第5グループ合同例会について

開催するかしないか、現在検討中とのこと。各クラブで開催について聞いてきてほしいとのこと。理事会で検討させていただくと思うので、ご意見があれば会長までお願いします。

・第5グループの例会の開催方法について

例会の開催方法について、全クラブと情報交換を致しました。

緊急事態宣言中は、休会がほとんどであるが、宣言前、宣言後からは、ほぼ全クラブが通常例会となっています。また、例会中の食事につい

2021~2022年度 横浜旭ロータリークラブ

第八回 理事会議事録

日時	令和3年10月7日(水) 13時30分より	出席者	北澤正浩 佐藤真吾 安藤公一 田川富男 市川慎二
場所	例会場	欠席者	目黒恵一 新川尚 宋謹衣
【審議事項】			
1 次年度会長及び幹事候補について 急遽ではあるが、次年度会長を安藤会員が引き受けてくださり、理事会にて承認された。幹事は予定通り新川会員となる。(承認)			
2 地区補助金対象プロジェクト(エコペーパー石鹸配布)について 今年度の奉仕プロジェクト委員会予算及び執行状況と予定を委員会で確認し、補助金の金額を踏まえながら、プロジェクトの活動を大きくすることを検討する。(承認)			
3 例会数変更と昼食再開について コロナ禍の情勢を踏まえ、継続審議とする。 明日開催される、会長幹事会にて第5グループの他クラブの状況を確認し、会長がフォーラムを開き、各会員の意見を聞く。(承認)			

ては、11 クラブ中、10 クラブは食事をしているといった状況でした。

先日の理事会で、他クラブの状況を確認して、当クラブの会員のご意見も伺いながら今後の例会数、例会中の食事を検討していきたいとなりました。

本日、委員会報告の中で、このことを北澤会長のフォーラムとして取り上げることとなっておりますので、ご意見があれば宜しくお願い致します。

他クラブの食事の内容

- ・緊急事態中は、食事を持ち帰り
- ・アクリル板で区切っている
- ・スクール形式で前を向いて食べる
- ・一斉に食事ではなく、例会に来たら順次、食べ始める
- ・食事を食べる、持ち帰りを選択できるようにした。
- ・例会場が 15 名程度しか入らない小さなお店なので、メーキャップは断り、会員のみで食事をしている

■奉仕プロジェクト委員会 佐藤 真吾

2021-22 年度「地区補助金」プロジェクトへ申請していた横浜 FC とのコラボ企画「エコパーパー石鹼配布プロジェクト」が決定となりました。今日の例会後に行われる理事会で今後の方針や進め方について検討いただきそれを踏まえ再来週の例会終了後に委員会を開催したいと思います。

■グローバル奨学生赤羽沙耶さん

第四回四半期報告書 2021/9/28

University of Sussex In the UK

【ロータリー関連活動】

感染状況の改善を受けて、長らく中止されていた Lewes クラブの昼食会が再開され、初回に参加させて頂きました。

色々な活動をされているロータリアンの方々とお会いすることができました。

President の Carole ともお話しでき、横浜旭クラブのバナーをお渡しし、Lewes クラブのバナーを頂きました。お会いした際にクラブの皆さんにお渡ししたいと思います。

【1 年を振り返って】

コロナ禍における 1 年間はあっという間だったように思います。授業はすべてオンラインで、一度も教授に直接お会いすることはできませんでした。コースや寮の同級生と会う機



会はあったものの、ロックダウンでなか

会場のバブには Lewes クラブの歴代 President の一覧を刻んだ板がありました。

なか息抜きができず難しい 1 年だったと思います。感染を避けるために、人脈を広げることも難しく、英語を使う機会が増やせなかったりと、学習や研究にも不安がありました。ロータリーに関する公式のイベントも、数回オンラインの例会に参加させて頂きましたが、対面では上記の昼食会のみとなりました。

しかし、個人的に何度もお会いする機会を頂き、1 年を通してサポート頂いたカウンセラーの方には本当に感謝しています。またワクチンが普及してからは、スコットランドを訪れるなどイギリスの文化や歴史の理解に役立つ時間を持つこともできました。

パンデミックの中でできる最大限の努力はしたつもりですが、経験できなかった分はこれから挽回できたらと思います。

【Bluebell 鉄道のイベント 鉄道のイベント】

7 月に、鉄道会社が催す蒸気機関車に関連するイベントが Brighton 近郊であり、カウンセラーの方にお誘い頂き参加することができました。当日までどのようなイベントかよく分からなかったのですが、カウンセラー



の Jim のお宅からイ

発車の準備をする Jim。「金と手間のかかる趣味だ」と仰っていました。



が所有する列車に乗って移動しました（タイヤがついていて公道を走ることができま公す）。運転席は非常に暑く、石炭の粉が舞っていて息苦しいのですが、座席が高い位置にあるので走り出すととても気持ち良く感じました。

イベント会場には、同じように列車を所有する方々が集まっていて、上の写真のようにたくさんの列車が展示されていました。ロータリーリー Lewes クラブの他のロータリアンの方も何人かいらして、直接お会いする初めての機会になり、お話を聞くことができました。私が蒸気機関車を見るのは初めてだと聞いて、信じられないと皆さん仰っていました。イギリスでは蒸気系の乗り物や重機は今でもメジャーのようです。

■ニコニコ BOX（会員敬称略）

吉原 則光／昨日にうって変って、すばらしい秋晴れのもの例会となりました。五十嵐さん中谷さん卓話よろしく楽しみにしています。

田川 富男／中谷さん、この様な時ですが、奉仕の精神は大切です。今後の活動を期待致します。

内田 敏／岡田さん本日の卓話よろしくお願ひします。中谷さん入会ありがとうございます。

安藤 公一／中谷さんイニシエーションスピーチ宜しくお願ひします。

五十嵐様、卓話宜しくお願ひします。

新川 尚／五十嵐徹様、卓話宜しくお願ひします。中谷さんイニシエーションスピーチ楽しみです。

北澤 正浩／(株)岡田屋常務取締役五十嵐様、卓話よろしくお願ひいたします。

中谷さん、イニシエーションスピーチ楽しみにしております。

市川 慎二／五十嵐徹様、卓話よろしくお願ひ

いたします。中谷さんイニシエーションスピーチ楽しみです。

中谷 逸希／本日イニシエーションスピーチを行います。よろしくお願ひいたします。

岡田 隆／中谷さん、イニシエーションスピーチ楽しみにしています。

福村 正／五十嵐様、卓話楽しみです。中谷さん、ようこそ、イニシエーションスピーチ楽しみです。

佐藤 真吾／五十嵐様、本日はお忙しいところ有り難うございます。卓話宜しくお願ひ致します。中谷さんのイニシエーションスピーチ楽しみです。

五十嵐 正／中谷さん、五十嵐徹様、本日の卓話宜しくお願ひします。

兵藤 哲夫／イニシエーションスピーチの中谷さま、卓話の五十嵐様本日楽しみにしてました。よろしくお願ひいたします。

太田 勝典／中谷会員イニシエーションスピーチ楽しみにしております。

■イニシエーションスピーチ 中谷 逸希

7月に入会させていただきました中谷逸希と申します。

このようなイニシエーションスピーチの機会をいただきまして横浜旭ロータリークラブの皆様感謝いたします。

さて、早速ですが自己紹介させていただきます。中谷逸希・1980年1月21日生まれの41歳本厄です。父は香川県の出身・母は岩手の出身です。小さい頃は夏に海、冬はスキーと両親の実家に帰るのがとても楽しみでした。私が生まれると同時期に、父は左近山中央診療所の隣



で歯科医院を開業し、今日まで40年以上にわたり地域歯科医療に貢献しております。

私は小学2年生まで左近山団地で過ごしていました。幼い頃には先代の福村先生からよくお声がけ頂いていたことを思い出します。今であれば幼稚園は矢田さんの昭和幼稚園を希望しますが、残念なことに希望ヶ丘の八つ橋幼稚園に行かされてしまいました。

小学校2年生までは左近山第一小学校（今の左近山小学校です）。3年生になり南万騎が原よりの緑園に引越し、3年生と4年生は万騎が原小学校。5年生の頃に緑園東小学校が設立されたので、緑園組はみんなで転校となりました。当時の緑園東小学校はバリアフリーでスロープなどもあり、斬新な造りでした。将来的には高齢者施設にするための設計だと聞かされ、何となく人口ピラミッドのひょうたん型を意識したのを覚えています。

30年前の緑園は空き地だらけの良い遊び場でした。遊歩道や、駅前のマンション郡はドラマの撮影などで結構使われていたので、よく野次馬しに行きました。いくつかサインをもらいましたが今となっては誰だか全く覚えていません。また、小学校の頃の記憶といえば、30年以上前に目黒会長のい志井さんの前にあった日能研に通ってました。今でも絶品のレバテキを食べに行くと日能研を思い出します。コロナ禍でなかなか行けませんがい志井さんは本当に美味しいものばかりで感動します。

中学は岡津中学校にいき、高校は藤嶺藤沢高校という高校へ通いました。部活などには入らず、アルバイトに明け暮れていました。

アルバイトは南万騎が原ライフにあった八百屋さんに一番お世話になりました。市場などにも連れて行ってもらい、とても楽しい職場でした。昔ながらのザルに小銭の暗算会計システムで、その日の野菜の値段をまずは覚えなくてはなりません。おかげさまで、短期記憶と足し算と引き算の暗算はかなり鍛えられました。お客さんと暗算勝負してよく褒められたものです。ただ、消費税3%の導入とともに一円単位での暗算ができなくなり、ザル会計方式からレジを

導入されたことで一気に頭を使わなくなりました。会計は楽になりましたが、お客さんとのやりとりが激減し、面白みがなくなった事を鮮明に覚えています。今でもコンビニなどでは自分の手持ちの小銭を減らす計算が得意ですが、最近では自動釣り銭機が増えてしまい唯一の得意技も出せず日々の脳トレがおろそかになっているのを実感します。

当時の高校生は時給相場が550円で、僕は700円もらってました。相当エリートな時給だと思っていましたが、今や最低時給が1050円の時代です。経営者になり、あの時の550円という一般的な時給が本当に最低時給以上だったのか？？とても気になるところです。

大学は横浜の鶴見にある鶴見大学の歯学部へいきました。曹洞宗の総本山である総持寺といえばご存知の方が多いかもしれません。石原裕次郎が眠るお寺です。その境内にある大学で6年間学びました。大学の頃はヨット部に所属し、先日のオリンピック会場でもあった江ノ島ヨットハーバーで活動していました。サーフィンもやっていたので大学の頃は海ばかりの生活をしていました。今でこそ、キャンプブームで車中泊のことをバンライフなどと呼び、カッコいい言葉が確立されていますか、ガソリン価格と相談しながらサーフィン仲間と良い波を求め、時間があれば車中泊の旅をしたのが大学時代の良い経験です。

歯科医師免許を取得してからは、横浜労災病院の研修医となり、その後、鶴見大学の第一口腔外科に入局し、長野松代総合病院・横浜総合病院・横浜労災病院・湘南東部総合病院の口腔外科で12年間様々な手術を執刀し研鑽を積みました。そして、3年前に南口にあるコブレニ俣川でふたまたがわ歯科口腔外科を開院いたしました。当初はスタッフ4人で始めましたが、現在は23名のスタッフで運営しております。

家族構成は妻と子供3人の5人家族です。子供は10歳・7歳・5歳の男・女・男です。高校が藤沢だった事と湘南ライフに憧れて約10年前から藤沢市の辻堂に住んでいます。今でも気が向いたらなるべく海に人ってサーフィンす

るように心がけています。家から海までは歩いて10分、自転車では3分ほどの距離に住んでいます。もし津波がきたら必ず被害が出る場所です。車や自転車は錆がひどく、湿度が高いので家にある革製品などは放置するとカビます。台風の時には前もって風向きチェックをしてベランダにあるものを避難させなければなりませんし、直撃した時は結構怖いです。海沿いの生活は色々不便ですが、住めば都でとても楽しいです。子供たちは昨年からのコロナ禍で学校や幼稚園が急に休みになっても、密にならない海に行って日光浴や砂浜での無限砂場を楽しむ、公園閉鎖などが報道されていた地域の子たちよりはストレスなく過ごせたのではないかなと思います。ただ、学校も風土と相まってとてもユルいので、いい意味でも悪い意味でものんびりしています。長男は幼稚園の頃から僕の一存で江ノ島のヨットクラブへ入れ、今は1人でヨットに乗れるようになりました。が、最近、第一次反抗期でヨットをやめると言い張っているので、次は次男に期待します。

去年の冬から子供と一緒に雪山にも行くようにもなりました。日帰りで群馬まで頑張って遠征しています。僕はスノーボードで子供たちはスキーをします。道路凍結してたり吹雪とか雨とか、いつもコンディションは最悪で、しかもゴンドラ2本くらいしか子供が体力もたないので、なんのために行くのかと苦行に近い趣味ですが今年も負けずに行きたいと思います。

信条は、困っている人には手を差し伸べることで、誰とでも仲良くするということです。今年に入り、当院は医療法人社団となりました。医療法人名は「なかよしや」です。香川の祖父が商店をやっており、「なかよしや」という屋号で、それを受け継ぎました。

祖父からは事あるごとに誰とでも仲良くしなさいと言われていました。ここ旭ロータリークラブでも諸先輩方と仲良くさせていただき、様々なことを学んでいきたいと思っています。外来を閉めなければならないので月に一度程度しか時間調整できないため、なかなか参加できませんが、今後とも何卒よろしくお願ひいたします。

■コロナ禍 イベント事業売上8割減 ～ワクチン・オリパラでV字回復 + α

株式会社岡田屋 五十嵐徹様

イベントの物品レンタルと会場施工を行う弊社ダスキンレントオール事業は、昨年度売上が約8割減となりました。新型コロナウイルスの影響により、あらゆるイベントや催事が中止となり、大打撃を受けたのです。

かろうじて残った仕事といえば、神事(式典)・試験会場・選挙関連程度でした。

先行きが全く見通せない中、今年度もイベントが復活しないと、事業の存続すら危うい状況でしたが、ワクチン接種会場と東京2020オリンピック・パラリンピックという2つの特需に救われました。

横浜市各区のワクチン集団接種計41会場の施工をさせて頂き、パーティションのレンタルはのべ4,670枚に及びます。

オリパラは主に、国立競技場・東京体育館・埼玉スーパーアリーナ会場に携わることができました。

上記により今期上半期において、例年年間売上のほぼ8割を達成しました。ワクチン接種が順調に進む中、その会場づくりの一助となることができ、また無観客とはなりましたがオリパラの成功に関わることができたのは、イベントを仕事とする者にとって非常に誇りに思っております。

特需は続きませんし、withコロナ時代を見据え、屋外イベントや食の催事以外の新たな需要を掘り起こすべく、今冬には日本を代表をする



企業の本社が集中する丸の内・大手町エリアに営業拠点を開設しようと準備中です。

最後になりましたが、一日も早くコロナが収束し、穏やかな日常が取り戻せますこと、心より祈念しております。

■ 20210828 pm 18:00 ~ 19:00

テーマ「災害支援業助ネットワークについて」

参加者／福本 壘先生（長岡造形大）・鯨岡一志（岩沼RC会長）・（以下災害対策委員会）増田嘉一郎・二宮登・北沢正浩・五十嵐正

▶福本先生／皆さん初めまして、長岡造形大学の福本と申します。鯨岡さんご無沙汰しております。本日はロータリーの友に投稿させて頂いた業助についてご興味をお持ち頂きありがとうございます。本日は友を読んで頂いたことを前提に、投稿させて頂いた以降、今どんな事をやっているのかという事と、友に書いてない事でしっかり皆さんにお伝えしなくてはいけないと思う部分が少しあるので、その部分について簡単にお話させていただきます。

先ず業助というのは、自助・共助・公助の言葉の中の共助に着目して、共助の部分を企業のネットワークで上手く出来ないかといった概念になります。実際に福本自身が業助のコミュニティーを作ったり構築したりしてはおりません。

概念を提唱しただけであって、構築自体は企業の方々であったり、企業ネットワークだったり、また企業の事業主が個人的にやったり、または地域の公共的事業の中に企業が集ったり、様々な形ですでに行われている取り組みを業助という視点で捉え直そうという形で概念を提唱しています。なのでその部分をご理解いただいたうえで、皆様の活動にプラスになるような意見をご提供出来たら嬉しく思っております。

実際、業助のネットワークと申しますとあまり耳慣れない言葉で、少し難しい感じを受けるかも知れませんが、おそらく皆様方がこれまで事業活動して来た中で、様々な業助に当たるようなネットワーク活動だったり業助活動だったりを行って来られているのではないかと思います。

先ほども話に出したのですが、これまで災害を契機にいろんな業助の取り組み・行為がいっぱいあったのですが、それを整理している段階で、どのような視点で整理するかと申しますと、やはり関わる主体が誰なのかという視点で現在整理をしております。例えば企業同士が取引先とネットワークを作るようなケース、これは被災地でも多かったケースです。あとは企業同士が地域貢献をテーマにネットワークを作るケース。ロータリーの活動の一部もおそらくこのような内容で取り組まれていると思います。あとは企業の事業主が一住人として町内会の活動とか、地域の活動に参加貢献するケース。あとは企業の事業主、企業のリソース（資源）とか様々な伝手を使える立場の人が、個人的に個人的な繋がりで行動するケース。あとは企業や企業主が行政の、例えば岩沼だったら千年希望の丘をみんなで作ろうとする事、ある程度行政が主導してやっている事に様々な企業が関わるプロジェクトベースのケース等、いろんなケースがあります。

こうした様々なケースの中に、こういった主体の方が関わっていて、ただ集まるではなくて、個人や企業ならではの役割があるだろうというのを、この業助の中で整理しており、特に時間軸で整理しております。それは普段の平常時の役割、発災時・災害直後の役割、それも被災者としての場合と被災を免れた場合、被災地域でなかった場合等そういった形で分けています。更にこういった復旧活動が積み重なっていった時に、その業種ならではの復興が見えてくるのではないかとというような形で3段階位に分けております。復旧についてはロータリーの友に書いた通りです。

まず大前提にあるのが、自社の復旧があります。ロータリーの友に書いてない事として、自社の復旧が大事なのは分かるのですが、自社の復旧をほっぽり出して地域貢献をしている会社さんもありました。その会社さんがその後、復興・復旧を続けていく時に、少し難しい局面にあったというケースの会社さんもありまし

た。一方でそういった復興・復旧支援をいっばいやっていて新しく機会を得た、もしくは何か会社としての使命を見出して事業活動に取り組まれた会社さんもありました。

そういった形で、時間軸で自社の復旧と地域の復旧を別に考えるケースと、一緒に考えて取り組むケースがありました。この辺りは事例として確認したといったレベルで、総数がどうであったというような整理が出来ていないので、今は話題提供としてこういうものがありましたとお伝えすることしか出来ません。

そういった時間軸で整理をしていく中で、こういった業助ネットワークを広げていく時に、ただ企業が地域貢献しないといけないとか、地域の復旧をやらなくてはいけないということではなくて、地域全体の中にどんな企業がいる、どんなことが出来て、どんな時期にどんな人が集まっているから、この地域はこういった復旧のポテンシャルがあります、というのを地図にし、行政側が使えるようなマップを作りまして、そういったものを行政に提示していくといった段階を取っています。

例えば皆さんはハザードマップというのを見たことがあると思いますが、例えば洪水・津波がこの地域は浸水時何メートル位の場所になります。あういう危険が塗り分けられた地図みたいなものの業助バージョンです。ハザードマップはここが危ないというのを示す地図になるのですが、業助バージョンでは、この地域はこういう企業があるから、こういった支援は見込める、この様なポテンシャルの地図を作ることで、ただ単純に危ない地域ではなくて、危ない地域・浸水深がある地域だけでも、こういった復旧に取り組める強い企業が集積しているから、この地域は回復・復旧・立ち直りが早いのではないかと、そういったことを判断出来るような地図を作り、都市計画や災害計画に活かす取り組みを現在しております。

ここで事前に頂いた質問に答える形で話を進めて参りたいと思います。先ず、行政の関与についてのご質問があったのでお話ししたいと思います。

ますが、行政の関与は凄く難しく、災害を乗り越えていく際に、規模が大きくなっても行政のパワーは変わりません。全体的には人口減少時代で歳入が減って行って、どんどん行政のパワーが弱まっていくことが考えられます。そういった中で、災害規模が大きくなればなるほど行政の職員が増えるわけではないので、行政に何かしてもらおうという事がそもそも難しい。一方で行政にマンパワーとか労力を頼らない部分をしっかりしておくというのは結構いろいろな事があって、企業単体で動きやすいように、災害時の協定を事前に結んでおくというケースが、東日本大震災以降結構あります。

例えば避難施設の開放など、行政自体が持っている施設や災害時の瓦礫土砂などを置く場所の使用など、そういった事を事前に取り決めをしておくというケースがあります。それを災害時の混沌とした状況の中でやるとダメだとか、ダメではないとか言う議論すら当時は行われなかったと思うのですが、見る人から見ると第三者から指摘されてしまうといった煩わしい事がありますので、行政から認可を得ておく、災害時にはこういった事を予め許可、自分達の裁量で動けるように、動きやすいように許可を頂いておくみたいな関与は有効なのではないかと思います。この辺については、偏心的なものだとドローンがあるのですが、ドローンは消防などが入れないエリアに飛ばしたいのだけでも、結構人が沢山いる可能性があって余り気軽には写せない。そういった状況の時に災害時の協定を結んでおくと、ドローンを飛ばして空撮して、空撮したデータを被災救助にあたる人に提供する。そういった事を事前に協定を結んでおけば、大きな問題にならず取り組むことが出来たりします。そういった形で事前に申請して許可をいただいているという形はすごくいいかなと思います。

あとは、業助の具体的な中身として、岩沼の農業法人の活動を具体的な内容として友に紹介させていただきましたが、先ず自分自身、福本自身が南三陸町に医療救急コーディネーター

とか岩沼の支援に行くと、岩沼の玉浦中学の津波で流されてしまった部活動備品の物品支援などをさせていただきましたが、それが出来た背景には、自分自身がローターアクトで、国際ロータリー 2780 地区のローターアクト代表でありました。そのローターアクトの代表として、地区と色々とお話をさせていただく中で、地区の補助金を一部活用させていただき、現地に物品を届けていたことがありましたので、自分が業助を提唱した後に、自分自身の活動も、業助のネットワークの一つに数えられるのではないかとという視点で、ロータリーの活動そのものが実は業助の一つではないかとロータリーの友に少しだけ書かせていただいたり、五十嵐さんとのメールのやりとりで少しご紹介させて頂いたりもしました。そういった国際ロータリーや各ロータリーのクラブの活動というのは業助になりうる可能性が非常に高い取り組みだと思います。

それ以外に、海外の会社を含めて広く“世界中の業助”みたいな活動があるのかと見てみた時に、災害時の復旧支援は結構寄付が多いのです。日本は労力だとか備品の支援が多いのですが、海外は圧倒的に寄付が多い、幾らお金を払ったかとか、チャリティーを開いて集まった資金を全額送金しました、というようなケースが主流です。

そういった地域の復興支援に対して寄付することも有りだと思いますし、災害時の労力の提供、岩沼の場合だと津波に被災したエリアの中で、泥と瓦礫で道がやられてしまったので、その支援補給経路をしっかりと確立する意味でも、地域企業がリーダーシップをとって道の整備を行ったみたいなケースがありました。これは東日本大震災だけじゃなくて、今自分は新潟県に住んでいますが、新潟県で中越の地震があった時にも、山村集落の山古志エリア、そこが集落と市街地をつなぐ道が土砂災害で埋まってしまった所を、集落の建設業が中心となって瓦礫・泥を撤去して、道を開通させたというケースが確認されております。こういった中でもインタ

ビューをしてみると、黙っていてもこの機械はあの人が乗れるとか、こっちの器具はあの人が使えるとか、そういうのがお互い分かってる状態でした。だから割と短い期間で手分けして復旧にあたる事が出来たという話をされてきました。そういった意味ではいろいろ協定を決めておく事以上に、何か地域で起きる問題、例えば道の復旧が必要な場合どういった部隊で事にあたる事が出来るか、といった事が地域で把握出来ると結構強いのかと思います。復旧出来るような素養とか、資源が無い場合にお隣さんから借りてくるとかといったネットワークが次の段階に考えられるのではないかと考えています。

そういった感じで様々あって、石巻などの地域でもちょっと調べている最中ですが、ホテル業の方が腐ってしまう食材を、避難所として開設して集まって来られた人々に無償で提供したなんて話もあったり、企業自体が存在して、ある程度の受け入れが出来る面積だったり土地のキャパシティや建築物を保有しているケースが高いので、一時避難施設としての業助のひとつかと思っています。

そういった形で様々なバリエーションが存在するというのが現在分かっている状況なので、そのバリエーションをこれから分類整理していく中で、業助の効果的な発動の仕組みみたいな事を次に研究成果として出したいなと考えております。

実際に動き出した具体例などは、今申し上げたように、業助という認識は、当事者は持っていないのですが、これは業助だという取り組みは無数にあります。その分類を今整理している最中ですが、見えるように取り組んでいるものの例として、自分が関わらせてやっている中では、私が元々参加していた国際ロータリー 2780 地区で行われた IM の中でお話をさせていただいた内容を、スピーチに切り取った経緯で、ロータリーの友に投稿させていただきましたが、IM なんかですとグループに所属する百数十人の会員さんが集まってきてくださるので、

どこにお住まいで、災害時にどういった支援が対応可能か、逆に出来ないことは何か。こういった事についてアンケートを行い、その内容から、結果を地図として表してみました。ちょっと皆様にお示しいたします。これは、2580 地区全体が分かるような範囲で、実際に IM で行いましたアンケート結果を基に、人的労力が提供可能な企業がどれ位集積しているかを表した地図になっています。一つの企業が立地しているところの半径 1 キロ位、歩いて 15 分程度なので人的労力が出来るのではないかとこの前提で縁を塗っています。この縁が重なり合っていくと、濃くなっていくという地図です。こういった地図を作ることで、先ほど言ったハザードマップと重ね合わせると、危険な場所がかつ企業が全然ないみたいな場所が分かってきます。逆に危険だけど企業が沢山いて復旧対応が行けるのではないかと。そういった事を地図として作りながら、これは人的労力の地図ですが、土地建物の一時利用や生活物資の提供、重機機材提供等いろんなバージョンを作っていて、これは試験的に集まった人達だけで行った地図ですが、全ての企業にアンケートを取るのが難しいので、ある程度の企業さんに回答して頂いたものから規模とか立地などで得点を少しずつつけていって、最終的には国が持っている企業の立地情報に業種だとか規模を当てはめていって数値化したものを地図に残して、いろんな地域で使えるようになったらいいなと思っております。

皆様がすでに発足されている基金やこれから業助ネットワークを活用する視点においては、皆様自身が目的としている達成目標や取り組みたい内容が明確にあると思うので、その明確にある内容に対して、業助という視点から、その内容を補強出来ないかという観点で、ひとつ貢献が出来るのではないかと考えています。コロナ禍ならではの対応方法として、皆さん一事業主の方が達成したいこと・自分達が出来ること・そして困っている事・困りそうな事。この辺りの情報を上手く収集することで、自分達の地域だけではなく、少し拡大したエリアを含めて、

補完関係が上手く作れないかということが業助ネットワークを活用していく時のポイントになるのかと思います。実際横浜旭 RC と岩沼 RC さんは、距離は有りますが、週報など拝見させていただき、めちゃめちゃ名前出てくるなと気になっていましたが、そういった形で距離をカバー出来るような、厚いハートを持った会員さんが居るケースと、そういった会員さんがいないケースは近い方がいい、等様々な形を、業助の活動条件として整備していって、しっかり世の中に出していきたいと思っております。

個人的には横浜の港南区に会社を持っていて、今回の皆様の取り組み自体が、業助概念提唱後に新しく組織を発足し、中間支援的な位置づけを世に出していくなかに一つのモデルとして、自分も何か関わらせて頂ければ嬉しいなと思っており、今回お話頂いた中で話題提供が出来ればと思いました。

業助の補足については以上なんですが、もう一つだけ資料をご紹介します。これは南三陸を支援した時のもので、2011 年の 7 月位に纏めた報告書です。南三陸と岩沼玉浦中。ロータリーの 2780 地区と自分がたまたま被災した年にローターアクトをやっていたので、ローターアクト同士が、自分がローターアクトだけやってる時に、日本にローターアクトが 33 地区あって、ロータリーアクトが個別に活動するだけだったので、そこを束ねる組織を作って、その初代議長をやらせて頂きました。この 3 者で取り組みをしていたことを少し最後の情報提供としてお話させて頂ければと思います。これ自体は大した報告ではないのですが、東日本大震災が発生してから、自分自身がこういった AMDA・ノエビア・国際ロータリー第 2780 地区の医療支援プロジェクトで取り組みをして、地域の人と今必要としている迅速なニーズを確認出来るようになりました。その確認をして、一方で義捐金とか様々な寄付金等をどこにどう使うか、迷われている方々の存在もロータリーを通じて知っていたので、その橋渡しを上手くやれないかなと個人的に立ち回っていたりしま

した。兎に角やったのがニーズの掘り起こし。その掘り起こした事を、いろんな人に共有して、その共有したことに対して動ける人を集めて、現地の人と繋ぐという活動をいっぱいやりました。そうした中で支援プロジェクトのスキームとして、ニーズの掘り起こしは個人的にやってきた事なんですけど、様々集まったニーズの対応方法を検討して、その優先順位を自分なりにつけたり、ロータリーの視点から付けてもらったり。現地から要望書・依頼書を頂いて、それを地区にお渡しして、担当者を擁立頂いたり、作業と会計作業を事務局の方をお願いしたり、そういう形でやった事が記録とか書面に残るような方法を取りました。

受領とか反響とか現地の方のアンケートの声をみたいなのを最終的には頂いて、共感を得て頂き納得頂いて、地区の補助金を活用させて頂いたので、費用を捻出して頂いている会員の皆様にしっかり説明する。こういった報告のスキームを簡単ですが、作って取り組んでいて、地区の補助金を使った活動は全部で4つやらせて頂きました。あとはロータリー以外の補助金や助成で12件、計16件やらせて頂き、一年半位はこれで上手く活動が回っていたので、こういったものも一つの仕組みなのかなと思っています。

▶五十嵐／業助としての具体的な例はまだなく、今資料を整理しながら追っかけて行くと業助の形だったのではないのかというイメージなんです。地域に業助ネットワークを作りたいと行動を起こしたケースはまだないということですね。

▶福本先生／まだないです。業助として業助コミュニティを作ろうと旗振りはしていません。

▶五十嵐／業助の概念自体は今整理されていて、少しずつロータリーにも浸透しているという話でしょうか。

▶福本先生／そうですね。ロータリーでは、自分もローターアクターとして少しやらせて頂いたので、皆様にお聞きしたことや当時の状況

を踏まえながら、こういった可能性があるのではないかとことで、すでにあるネットワークを業助という言葉でラッピングして、しっかり世の中のようなコミュニティとか問題解決に位置づけていく、そういった活動をいまやろうとしている所です。

▶五十嵐／もう一つですが、地域の企業の特調を表した地図をお作りと伺いましたが、その地図の名称は何でしょうか。

▶福本先生／これは業助ポテンシャルマップと名前と付けております。ハザードマップというのが余りにもここが危険だということしか示してないのです。もうちょっと、防災とか災害を乗り越えていく時に希望というのがあるべきだと思ってまして、その希望の一縷の光に企業というのが凄く活躍するのではないかと、そういったポテンシャルをしっかりと図に表し見えるようにするというのを研究成果の一つの形として表現している。

▶五十嵐／今後我々ロータリーが動くとして、こういうプランがありますよといった時に、基礎資料として、旭区の企業の種類を調整・整理して、こういう所が旭は強いですよ、このへんは弱いですよといった事を行政に提案して、そして業助ネットワークを作る提案になる資料にこのマップがなるんでしょうか。

▶福本先生／行政に補強をしてくれといっても、相手は無理だといってくるので、あくまでも自分の地域の強い所と弱い所みたいな事がこれで分かったら、その隣接地区との連携とか、あとは離れた所と姉妹都市提携みたいなものを結んでいて、その地区連携する。その地域の特性が、地域単位で把握することができると思います。

▶五十嵐／業助ポテンシャルマップというものの見本はあるのでしょうか。

▶福本先生／先ほどお見せしたものの、ロータリーの会員さんの回答を集積しただけなので、そこから企業の集積情報を国がデータとして持っているの、そこに加点をしていくとハザードマップの回復版です。ハザードマップは

危険を示すものですが、逆にここは回復が見込める地域だよというのが分かる地図が出来ます。これを危険と回復を重ね合わせると、危険で回復が見込めないエリアと、危険だけど回復が見込めるエリア、危険じゃなくて回復が見込めないエリア、危険じゃなくて回復が見込めるエリア、とさらに細かく分けられると思います。こういったものが外部から支援を受け取る時の受援体制をつくる基礎資料になったりするといふふうに考えております。

▶増田／我々はこれからこういう組織を作っていくこうと動きを始めたところですが、その際に今社会では企業再生計画を立てるというような事が盛んに言われているもので、それを利用して、あなたの企業が災害に遭ったらこういう被害を受けるでしょう、その再生・復旧の為にはこういう援助が出来ますよということをアピールしながら、加盟企業を募集したいなみたいな考えを持ったわけです。そういう考えをもった中で募集することに何か弊害とか、実際に運用を初めて弊害がでてくるのか。問題点があるのかお伺いしたいところです。

▶福本先生／先ずメリットとしては今回作られる組織内の会員同士の互助、お互い助けあうというメリットはすごく大きいと思います。ですが、その団体が外から助成金を貰ったり補助金を貰ったり、もしくは被災をした時どこからか寄付を貰った時に用途が怪しまれる可能性があるなと思います。五十嵐さんとのメールのやり取りにも書いて置いたのですが、一つ異業種ネットワークの調査をしていて、いろんな所で断られることもあります。当時のことは余り話せないのですが、その話せない理由に、いろんな所から貰ったお金を会員に配布したりした事もあったりしたみたいです。私はそれも事実としてしっかり載せて制度化出来ないか考える方なんですけど、後ろめたい気持ちをもたれてやられた方もあったようで、後ろめたい気持ちをもつということは、そういうのはけしからんと思うような人も世の中にはいると思うので、そう

いった意味での弊害は生まれてくる可能性はあるかと思います。

事業再生計画自体そもそものBCPとか、事業自体を継続していくという視点においての話と、それから元々企業が持っている様々な課題を克服していこうと、地域での復旧・復興としての話と、企業単体での復旧・復興としての話と、そういったところを上手く折り重ねていくことが凄く重要だと思うのですが、如何せんケースが不足しているので、もし会員を募る際には具体的なケースを明示して頂けると、怪しさも減るし、すごくいい。ただお互い補完出来ますよ、ではなくて、こんな時にはこう補完出来ますよ、出来ました。という具体的事例があると魅力に感じるのではないかと思います。

▶五十嵐／ポテンシャルマップを作成する際、加点をするとありましたが、加点をしていくマイナス点プラス点の判断の基準と種類、医療なのか交通なのか物流なのかその辺りの分類と加点の関係、基準はお作りになっているんですか。

▶福本先生／現段階では細かく詳細には出来ておりません。本来だったら、おっしゃる通り企業Aから困っている地点の道と必要な運搬資材等全て考えていかななくてはいけないのですが、先ずは社会調査で先ほどお見せしたような、資金を提供できるとか人的労力を提供できるとか、資材・土地を提供できる、様々なそういう支援が災害時に出来るか？ということをお聞きして、聞いた内容から業種の実施できる割合などを算出して得点を決めていくという感じです。重みづけをして、統計的におかしくならないように作ります。これ自体は精密さに欠ける資料となると思うので、あくまでもこういった絵を描いた時に、様々な地域の強みと弱みが分かってくる、それらが補完できる関係を作るための資料として出したいという感じです。

■次週の卓話

11月24日「ダバオ市にパソコンを送るプロジェクト他外国人支援活動について」
大元麻美様（わたぼうし教室代表）